

第1節 大学の理念・目的および学部・研究科の使命・目的・教育目標

1. 大学の理念・目的・教育目標等

(理念・目的)

【現状の説明】

平成20年4月1日に旧長崎県立大学と旧県立長崎シーボルト大学を統合して開学した本学は、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」、「長崎に根ざした新たな知の創造」、「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を理念・目的に掲げている。

この理念・目的は、統合前の両大学における「建学の理想」、「理念」及び長崎県公立大学法人の中期計画等を踏まえつつ、「高度専門化」・「情報化」・「国際化」の一層の進展、少子化による大学全入時代の到来、大学間競争の激化など、大学をとりまく大きな環境変化に、大学の人的・知的・物的資源を総合して対応し、学生に選ばれる個性あふれた質の高い教育研究体制と学生のニーズに対応したきめ細かい教育システムの構築を図るとともに、地域社会への貢献を一層充実し、長崎県が日本の近代化と国際化において文化や学術の面で担ってきた輝かしい歴史を21世紀に継承・発展させることを目指して設定したものである。

なお、学部・学科・研究科の理念・目的および人材育成の方針等は、本学の理念・目的を踏まえ定めている。

本学の人材育成方針は、以下のとおりである。

●新長崎県立大学の人材育成の方針

本学の理念・目的を達成するために、学部においては、各学部の専門に関する知識を教授するとともに、幅広い教養教育を履修させることにより豊かな人間性と高い知性の涵養を図り、複雑・多様化する社会に的確に対応できる深い洞察力と実践力を備えた創造性豊かで、経済・国際関係・情報メディア・看護・栄養の分野で活躍する専門的職業人を育成する。

大学院においては、学部における専門の基礎をさらに発展し、幅広い見識と高度な専門知識を有し、経済・国際関係・情報メディア・看護・栄養の分野で高度専門職業人として活躍できる人材の育成を目指す。

また、本学の理念・目的および人材育成等の周知については、学部・学科・研究科の理念・目的、基本的な活動目標(学部・学科・研究科の特色)、人材育成の方針とそれぞれが求める学生像を結びつけて、学部・学科・研究科のアドミッション・ポリシーを策定し、公表している。これらはこれまでと同様、学生便覧等の刊行物、ホームページ、大学案内等のパンフレット等を通じて、教職員、学生、受験生をはじめとする社会一般に周知している。

また、教育に関する目標、方針、アドミッション・ポリシーは、これらの周知方法に加え、オープンキャンパス、教職員の高校訪問などの機会を通じ、受験生、高等学校に周知している。

理念・目的・教育目標等の妥当性については、統合前の両大学の「建学の理想」、「基本理念」

に基づき作成した長崎県公立大学法人の中期計画の推進と達成状況の点検・評価を通して検証を行っている。

また、中期計画の達成に向けた各年度の実施状況については、業務実績報告書として取りまとめ、長崎県公立大学法人評価委員会の評価を受けた上で公表している。

【点検・評価】

本学の理念・目的等の実現を図るため、中期計画推進本部等および自己点検・評価委員会を通じて、中期計画をもとに自己点検・評価を行い、不断に改善を進めていくこととしている。

なお、理念・目的・教育目標等については、ホームページ、各種刊行物等で広く周知を図っているが、国際化を目指す大学としては、海外に対しての情報発信が十分ではないため、海外への情報発信の充実を図る必要がある。

【改善の方策】

本学の理念・目的等を海外へ広く周知するため、英語、中国語、韓国語によるホームページの作成等を通じて、情報発信を積極的に行っていく。

2. 学部の使命・目的・教育目標等

経済学部

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

経済学部は、平成 20 年の旧県立長崎シーボルト大学との統合による新長崎県立大学の発足を機に、新大学の理念のもと、これまでの経済学部の建学理念を継承するとともに、21 世紀の新たな経済社会に貢献する人材育成を目指して、以下のとおり学部の理念、目的等を設定した。

本学部は、長崎県の豊かな自然的・歴史的・文化的な地域特性を踏まえ、21 世紀の経済社会が直面する、経済グローバル化と新たな国際競争と国際関係、高度な知識・技術・情報社会の展開、地球的規模で進む環境問題など高度な諸課題に対して、経済学・地域政策学・流通学の分野を中心に理論と実践を融合させる観点に立った教育研究を行い、21 世紀の国際および地域社会経済の構築に貢献する創造性豊かな人材を育成するとともに、東アジアを中心に国際社会に発信する地域の研究拠点となることを目指している。

具体的教育目標は、教養教育と経済学を基盤とする専門教育の密接な連携により、人間尊重と平和を希求する精神を基本とした豊かな人間性を備え、高度化・複雑化し変化の激しい現代社会で活躍できる洞察力と創造性に富む、真に実力ある専門職業人の育成を目指す。特に、地域経済や国際経済の諸問題を的確に把握し、その解決策を導き出す企画能力を有する人材、地域社会の発展に積極的に寄与しリーダーシップを発揮しうる人材、流通システムの変革に対するグローバルな視野を持ち地域経済および国際社会の発展に寄与する人材の育成を目指す。

なお、本学部を構成する経済学科、地域政策学科、流通・経営学科の各学科においても、大学や本学部の理念・目的等を踏まえ、以下のような理念・目的及び人材育成方針を掲げている。

a) 経済学科

ア) 理念・目的

流動化・多様化・国際化する現代経済の諸問題やニーズへの的確な対応能力を養成するという理念のもと、経済政策および国際経済に関わる分野を中心とした教育研究を通じ、地域社会のみならず国際社会の経済発展に貢献するとともに、理解力と応用能力に優れ、グローバルに活躍する高度な産業人の育成を目的とする。

イ) 人材育成の方針

地域経済の発展に寄与するため、地域経済の諸問題を的確に把握して、その解決策を導き出す企画能力を有する人材を育成する。

また、古くから海外貿易の拠点として発展してきた本県の特徴を活かし、国際的な視野とコミュニケーション能力を養成し、貿易や海外事業などグローバルな経済社会で活躍できる能力を有する人材を育成する。

b) 地域政策学科

ア) 理念・目的

多数の島嶼と豊かな海洋を有する地理的特性、古くから海外貿易・大陸文化の窓口であった歴史的特性を持つ長崎県においては、「グローバル」と「ローカル」を真に表裏一体のものとして捉える「グローカル」な視点をもって地域社会の発展に貢献する人材の育成が必要である。

このため、学部共通の経済学を基盤とし、その領域に広がる地域の産業、社会・文化、環境、健康・福祉といった分野を軸に、現状や将来の課題をグローカルな観点から把握、分析し、地域の発展に向けた諸政策を立案できる人材の育成を目標に掲げ、急速に変貌する地域社会に柔軟に対応するための教育研究に取り組む。

イ) 人材育成の方針

都市化の進展によって人々の活動が広域化した現代社会においては、地域資源を活かしたまちづくりなど、各地で魅力ある地域づくりが進められている。

このため、公務員等として活躍できる実践的な政策立案能力を有する人材、地域社会の発展に積極的に貢献し、リーダーシップを発揮しうる人材を育成する。

また、幅広い教養教育を基礎に国際的識見を涵養するとともに、高い外国語コミュニケーション能力を養成し、東アジアをはじめとした諸外国の企業や組織で活躍できる柔軟性のある個性豊かな人材を育成する。

c) 流通・経営学科

ア) 理念・目的

産業構造の高度化、複雑化、グローバル化などの構造変化と情報化の進展が著しい現在、生産や消費と並ぶ経済活動の重要な部分領域である流通を「人・物・金・情報の流れ」の観点から考察しながら流通の分野に関する多角的な分析能力と情報活用能力を養成するため、流通原理、マーケティング論、流通情報論、会計学といった分野を中心とした教育研究を通じ、地域的視野と国際的視野を併せ持った 21 世紀を担う実践的な産業人の育成を目的とする。

イ) 人材育成の方針

わが国の産業構造は現在、成熟化、情報化、国際化が進展し、複雑・多様化した社会経済情勢を迎える中、流通部門のウエイトはますます大きくなっている。

このため、流通に関する専門的知識を備えた人材を育成するとともに、流通システムの変革に対するグローバルな視野を持ち、地域の経済に貢献することが出来る人材の育成を図る。

また、理論と実践を融合した教育を行い、商品流通、資金流通、情報流通の知識と感覚を習得した社会の第一線で活躍できる人材の育成、情報技術の利活用能力を習得した行動力や実践力を持った人材を育成する。

以上の学部・学科の理念・目的、人材育成の方針等は、大学のホームページ、大学案内パンフレット等により広く社会に周知するとともに、受験生に対しては、学生募集要項やオープンキャンパスなどにおいて周知徹底を図っている。

【点検・評価】

本学部においては、新大学の教育目標の下に、長崎県の地域特性や旧大学の伝統を踏まえた教育理念、目標を設定して教育研究に取り組んでおり適切であると言える。

なお、教育目標等については、ホームページや大学案内などに掲載して広く周知を図っているが、学生便覧に掲載していないなど在学生に対する周知が不十分である。

【改善の方策】

在学生に対しても、学部・学科の理念、教育目標等をあらためて周知徹底するため、学生便覧へ理念、教育目標等を掲載する。

国際情報学部

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

国際情報学部は、21世紀社会の国際化・情報化に貢献できる創造性豊かな人材を育成するとともに、長崎に相応しい知の研究拠点としての役割を担うことを目的として設置された。

学部の人材育成の方針として、「自国と外国の歴史・文化に関する十分な知識と、実践的な外国語運用能力を有し、国際的に活躍できる人材の育成」、「国際社会が抱える諸問題を考察・分析する能力を身につけた国際感覚あふれる人材の育成」、「最先端の情報技術に関する十分な知識を有し、情報技術者として活躍できる人材の育成」、「情報技術が社会・文化に与える影響について幅広い見識を持ち、社会の多様な分野で情報化を推進できる人材の育成」を掲げ、国際交流と情報メディアの分野に関する教育・研究を推進している。

本学部は、国際交流学科と情報メディア学科で構成され、以下のような理念・目的及び人材育成方針を掲げている。

a) 国際交流学科

ア) 理念・目的

21世紀の国際社会の抱える諸問題を深く考え、国際社会を総合的に理解する能力と実践的思考力を養成し、国際的に有用な人材の育成を目指す。

また、長崎を基点とした日本の文化・歴史・社会の理解を深め、諸外国の文化・歴史・社会・言語との比較分析をすることにより、国際化の中での地域社会の担うべき役割を理解し、地域や国際社会に貢献できる能力を養成する。このため国際政治学、世界と国家の安全保障、アメリカの政治と外交といった国際関係科目と、長崎学、比較文化論、文化とコミュニケーションといった比較文化関係科目を中心に学際的専門教育と幅広い教養教育を行なう。また、国際語である英語と東アジアを理解するため、特に中国語の習得を強化し、国際人としてのコミュニケーション能力を養成し、国際社会及び国際化の中で地域社会が担う諸問題に貢献できる人材の育成を目指す。

イ) 人材育成の方針

- ・英語を中心に高度で多様な外国語教育を行い、実践的な語学能力を高めることによって、国際的に活躍できる人材を育成する。
- ・国際政治や国際経済など社会科学系の科目の修得を通じて、国際社会が抱える諸問題を総合的に考察・分析する能力を養い、国際感覚を有する人材を育成する。
- ・長崎をはじめとする我が国の歴史・文化・社会についての理解を深め、あわせて諸外国の歴史・文化・言語などに十分な知識を持つことができるよう幅広い教養教育と学際的な専門教育を行うことにより、21世紀の国際社会で活躍できる人材を育成する。

b) 情報メディア学科

ア) 理念・目的

日々進化する高度情報化社会への柔軟な対応を可能とするため、情報技術領域、情報コミュニケーションデザイン領域、情報社会領域といった分野を中心にした情報メディア関連の学際的教育・研究を行い、基礎から応用までの幅広い情報技術知識の修得により多様な領域で活躍できる情報エキスパートを育成する。

イ) 人材育成の方針

- ・高度情報化社会で重要となる情報技術について、基礎から応用までの幅広い修得を図り、情報技術者（S E、プログラマー、W e b デザイナー、情報科教員等）として活躍できる人材を育成する。
- ・健全な暮らしと豊かな社会を実現するために、情報技術の社会への影響力を理解し、かつ、情報コンテンツの作成・発信力のある、情報社会の様々な分野で活躍できる職業人（メディア産業人、W e b デザイナー、番組製作者、番組ディレクター等）を育成する。
- ・情報メディア関連の学際的教育に基づき、高度情報化社会の学際的分析を行う能力を養い、理解を深めるとともに、情報に関する法・政策・経済システムを巡る様々な問題を解明し、課題を解決する能力を持つ専門職業人（公務員、マスコミ・出版関係等）を育成する。

学部・学科の理念・目的、人材育成の方針等は、大学のホームページ、大学案内パンフレットにより広く社会に公表するとともに、受験生に対しては学生募集要項により、在学生に対しては学生便覧により、周知徹底を図っている。

【点検・評価】

学部の人材育成の方針は、「国際化・情報化に貢献できる創造性豊かな人材を育成する」という理念・目的に基づき設定されており、また、学科の理念・目的及び人材育成の方針も、学部の理念・目的に基づきそれぞれの専門分野に合わせて設定されている。しかし、周知については、今後も積極的に取り組むことが必要である。

【改善の方策】

国際化・情報化に関する社会の動向や技術の進展などに対応して、必要に応じて、学部・学科の教育目標等については見直しも検討していく。

また、学部・学科の理念・目的等については、引き続き積極的に地域社会等に対して周知を図っていく。

看護栄養学部

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

看護栄養学部は、看護と栄養のそれぞれの専門領域がともに協力し、補完しあいながら地域の多様な保健・医療ニーズに対処し、地域住民の健康の維持・増進・回復等に貢献するとともに、「病を癒し健康を守る」職業人の育成を図ることを目的として設置された。

学部の人材育成の方針は、「人々の健康な生活を支援するため、豊富な科学的・専門的知識の修得と、あらゆる年齢層のさまざまな健康状態の人々と接することができる豊かな人間性を持つ人材」、「健康科学の基礎と応用を総合化した教育研究を推進することにより、実践的問題解決能力を養い、地域の保健・医療活動を通して、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材」の育成を掲げ、看護師、保健師及び管理栄養士等を育成している。

本学部は、このような理念・目的、人材育成の方針を達成するため、看護学科と栄養健康学科を設置し、それぞれ以下のような理念・目的及び人材育成方針を掲げている。

a) 看護学科

ア) 理念・目的

生命の尊厳と人権の尊重を基本とし、人々の健康問題の解決に向けて、国際的視野を持ち、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の養成をめざす。さらに看護職として、看護学の発展に自律的、創造的に寄与する人材を育成する。

また、この教育理念の達成に必要な看護学・保健学領域の研究を推進する。

イ) 人材育成の方針

「看護の対象である人間の理解と生命の尊厳に基づいた支援ができる能力」、「個人や集団の健康状態を的確に捉え、生活の質の向上を目指した看護を展開できる基本的な能力」、「個人・集団の健康問題を解決するための看護実践能力」、「保健・医療・福祉等の他職種と連携・協働しながら、看護の専門性を発揮した看護活動ができる能力」、「広い視野に立ち、看護の発展に寄与できる基礎的能力」を養う。

b) 栄養健康学科

ア) 理念・目的

生命科学に立脚した「食と健康」科学の統合化を目指した栄養科学と健康科学の基礎と応用を総合化した教育研究を推進し、「食と健康」に関する専門的知識や技能を保持し、健康社会実現のために社会の幅広い分野で貢献できる専門的な人材を育成する。

イ) 人材育成の方針

「地域の人々の健康と福祉の向上に貢献できる問題解決能力」「人々の健康維持・増進と疾病の予防・回復に貢献できる栄養マネジメント・アセスメント能力」を養い、健康社

会の実現に幅広い分野で貢献できる管理栄養士を育成するとともに、食品開発、食糧資源の有効利用、食品衛生管理などの分野で活躍できる栄養学・健康科学研究者、次世代社会を拓く子供たちの食育を担う栄養教諭の育成を目指す。

学部・学科の理念・目的、人材育成の方針等は、大学のホームページ、大学案内パンフレットにより広く社会に公表するとともに、受験生に対してはオープンキャンパス時や学生募集要項により、在学生に対しては学生便覧などにより、周知徹底を図っている。

【点検・評価】

学部の人材育成方針は、学部の理念・目的である「看護と栄養のそれぞれの専門領域がともに協力し、補完しあいながら地域の多様な保健・医療ニーズに対処し、地域住民の健康の維持・増進・回復等に貢献するとともに、病を癒し健康を守る職業人の育成」に基づき、設定されており、また、学科の理念・目的及び人材育成の方針も、学部の理念・目的に基づき、看護、栄養の専門分野に合わせて設定されている。しかし、周知については、今後も積極的に取り組むことが必要である。

また、この人材育成方針に基づき、教育・研究を進めてきた結果、看護師、保健師及び管理栄養士の国家試験合格率は、高い水準にある。

【改善の方策】

人材育成の方針等の検証については、さらに卒業生の就業状況などを経年的に追跡し、その妥当性を検証する。

また、学部・学科の理念・目的等については、引き続き積極的に地域社会等に対して周知を図っていく。

3. 大学院研究科の使命・目的・教育目標等

経済学研究科

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

a) 理念・目的

経済学研究科（修士課程）は、本学経済学部の3学科（経済学科、地域政策学科、流通・経営学科）における経済、地域、流通などに関する学問分野を基礎として、グローバルな問題発想ができる高度な専門的職業人や国際的に貢献できる人材を育成するとともに、地域に根ざした大学院として、産業社会・地域社会の発展に貢献することを理念・目的とする。

b) 人材育成の方針

本研究科は、「産業界、官公庁、あるいは研究分野からの幅広い社会的人材育成ニーズに対応し、

現実の産業・地域社会に対する様々な側面からの課題探求能力を備え持つ高度な専門職業人を育成することとしている。領域別にみると、「産業・経営領域」では、産業・経済に関する広い視野と能力、高度な専門能力を備え、産業分野における活力創出のニーズに応えうる高度な専門職業人を育成し、また、税理士などの国家資格を取得し、地域産業の活性化に寄与できる税務・会計に関する高度な知識を有する会計エキスパートを育成すること、「地域・公共政策領域」では、地域経済・地域産業振興や公共政策等に関する政策の企画・立案をリードする政策エキスパートやまちづくりコンサルタントを育成し、また、国際経済の変化に対応し、国際間および地域間の諸問題を多次元から分析する能力を有して国際社会に貢献する高度な専門職業人を育成することを人材育成の方針としている。

なお、本研究科の理念・目的・教育目標は、ホームページ、学生募集要項、大学案内等に掲載するとともに、平成19年4月施行の改正大学院設置基準に対応し、人材育成の目的等を大学院学則に定め、広く周知を図っている。

【点検・評価】

21世紀の知識基盤社会を迎え、産業経済・経済開発などの分野においても「専門化」、「情報化」、「国際化」という現代社会の要請に適応する人材育成や高等専門教育など、大学院への期待は更に高まってきていることから、本研究科の教育研究を通じて、社会的に高度な人材育成が求められる分野について寄与できることと、学内外のニーズに対応した高度な教育が提供できることは評価できる。

また目標などの周知については、ホームページなどを通じて、多くの人が本大学院の理念・目的・教育目標にアクセスできることは評価すべき点といえるが、平成20年度に統合し新設した本研究科の理念・目的等の周知は、十分とはいえない。

【改善の方策】

本研究科の理念・目的等の周知を図るため、今後とも大学ホームページや大学案内等を活用して広く発信する。

国際情報学研究科

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

a) 理念・目的

I T革命の急進展やそれに伴うグローバル化の深化などによる社会の激しい変化に対応できる人材を育成するため、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を有する高度専門職業人の育成を図るとともに地域社会や国際社会へ貢献できる大学院(修士課程)を目指す。

b) 人材育成の方針

本研究科は、国際性、学際性、先端性を重視した教育研究に基づき、時代や社会の要請に応えることができる高度な知識と技術を有し、国際・地域社会や企業などで中心的・指導的役割を担える高度専門職業人の育成を目指し、また、将来研究者を目指す者に対しても配慮した教育を行っていく。

また、国際交流学専攻では、「国際性・学際性に重点を置いた教育研究に基づき、国際社会・言語・文化についての国際理解とそれに基づく国際協調の精神を持ち、国際社会に貢献できる人材」を、また、情報メディア学専攻では、「情報技術分野における技術者、特に、組織内での指導的役割を担える、幅広い知識や技術を持つ人材」を育成することとしている。

本研究科の理念・目的、人材育成の方針については、大学ホームページや大学案内、学生募集要項等に掲載し、周知を図っている。

【点検・評価】

本研究科の人材育成方針は、本研究科の理念にある「国際性・学際性・先端性を重視した教育研究に基づく幅広い知識と技術を有する高度専門職業人の育成」を、各専攻の専門性に合わせて設定していることから、その関連性は適切である。

理念・目的等の周知については、上記のような方法で行っているが、平成20年度に開設したばかりであるため、地域社会における本研究科の知名度は低く、理念・目的等の周知は十分とはいえない。

【改善の方策】

本研究科の理念・目的等の周知を図るため、今後とも大学ホームページや大学案内等を活用して広く発信する。

人間健康科学研究科

(使命・目的・教育目標)

【現状の説明】

a) 理念・目的

高度な知識・技術を求める社会的ニーズに対応できる人材を育成するとともに、大学の知的財産を地域住民・企業等に還元し、社会に貢献するためには、より高度な教育・研究体制と県民の期待に沿う成果が上げられるシステムづくりが必要である。本研究科は、こうした状況を踏まえ、「看護・栄養の各専門分野における高度な専門的職業人や県民の健康の保持増進ならびに疾病の予防に寄与する最新の知識や技術を研究開発する能力」「最新の知識や技術を活用して、県民の健康水準を向上させていく能力」「地域の専門職と連携して県民の生活習慣に変革をもたらす政策を考案し保健・医療・福祉システムを変革する能力」を養成する。また、健康の保持増進の視点に立って次世代の専門職を育てる教育指導者を育成するとともに、地域住民の保健・医療・福祉な

らびに地場産業の発展・活性化に寄与することを目的としている。

b) 人材育成の方針

保健医療をめぐる状況の加速度的な変化とニーズの多様化・複雑化に対応するには、自ら課題を探究し、幅広い視野に立って柔軟かつ総合的な判断を下して問題解決ができる指導的人材、すなわち高度専門職業人を育成することが急務となっている。また、実務の場における新人の専門職業人に対して、実践的な教育指導ができる高度な専門家が要求されており、将来の保健医療の基盤を支える研究者の育成も必要である。さらに、過疎化・高齢化が急速に進んでいる島嶼が多い本県においては、高度化・細分化および特性化した地域の社会的ニーズに応えるためのマンパワーの育成および再教育が必要である。21世紀の健康問題・保健医療問題に適切な対応ができる質の高い人材育成を目指している人間健康科学研究科は、上記に示した状況へ対応するため必要な人材を社会へ供給する。

本研究科の「理念・目的」及び人材育成方針については、大学ホームページや大学案内、学生募集要項等に掲載し、周知を図っている。

【点検・評価】

本研究科の人材育成方針は、理念・目的に掲げる能力を有した高度専門職業人として、地域における指導的役割を担う人材、保健医療の基盤を支える研究者、また、本県の地理的特性から生じる社会的ニーズに対応できる高い資質を持った人材を育成することである。

また、人々の健康の保持増進という共通の目標を持つ看護学専攻と栄養科学専攻によって構成されるユニークな研究科として、保健、医療、福祉や介護などの領域の有機的な連携による高度専門職業人の育成も可能である。

本研究科の入学者は、近年、定員の確保ができるようになったが、このことは、広報活動による本研究科への理解が進むとともに、教育研究指導の成果に対する評価が高まったものと考えているところであり、本研究科の理念・目的等の周知については、引き続き積極的に取り組む必要がある。

【改善の方策】

本研究科の理念・目的等の周知を図るため、今後とも大学ホームページや大学案内等を活用して広く発信する。